



# 2019年 責任投資活動報告

一生涯のパートナー  
第一生命

 Dai-ichi Life Group



1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ ESGテーマ型投資の実績	
		✓ ESGインテグレーションの取組事例	
2. 第一生命が目指す姿	…3		
3. 責任投資のアプローチ	…4	7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	
4. 責任投資の推進体制	…5		
5. ハイライト	…8		

# トップメッセージ

**私たちは、保険契約者をはじめとする多様なステークホルダーの期待に応えるため、「第一生命らしい責任投資」を通じて、運用収益の獲得と社会課題解決の両立を目指します**

## 社会課題解決に向けた生命保険会社の資産運用の役割

2015年に国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択されて以降、企業や金融機関へ「社会課題解決への貢献」に対する期待が国内外で高まっており、近年、その取組を後押しするための国際会議やシンポジウムも世界中で開催されています。

これまで生命保険会社は、機関投資家として長期安定資金の供給を行うことで、新たな産業の育成や社会構造の転換等、様々な社会課題の解決に貢献してきました。持続可能な社会の実現に向けて国際社会が連携して社会課題の解決に取り組む現状において、生命保険会社の資産運用が果たす役割はますます大きくなっていると感じております。

このような背景も踏まえ、当社は従来より取組を推進してきた、ESG投資とスチュワードシップ活動を柱とした「責任投資」を資産運用高度化における重点取組の一つに掲げ、より一層取組を積極化させております。

## 第一生命らしい責任投資

第一生命は、日本全国の約1,000万名の保険契約者からお預かりした約36兆円の資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」として、多様なステークホルダーを意識した資産運用を行う必要があると認識しています。したがって、運用収益を獲得するだけでなく、地域・社会の課題解決に貢献していくことも使命であり、「第一生命らしい責任投資」を積極的に推進しています。

当社は、日本を軸にグローバルに事業展開していることから、以下の重点テーマを掲げ、資産横断的にESG投資を推進しています。

- ・「QOL向上」 : 第一生命グループの価値創造の注力分野
- ・「地方創生・地域活性化」 : 日本の社会課題
- ・「気候変動の緩和」 : グローバルの社会課題

また、当社は、「一生涯のパートナー」をグループミッションとして掲げており、成長ステージ毎に異なる投資先企業の課題に中長期的視点で寄り添い、エンゲージメント（中長期的な対話）を中心としたスチュワードシップ活動を行っています。具体的には、「ガバナンス体制の整備」、「経営戦略・資本政策の高度化」、「社会課題解決に向けた取組推進」等の課題解決を後押し、企業価値向上の支援に取り組んでいます。

## ステークホルダーの皆さまとともに

この度、私たちが生命保険会社の資産運用を通じて責任投資に取り組む想いや具体的な取組について、保険契約者・株主・取引先・地域社会等、全てのステークホルダーの皆さまにお伝えするために、この「責任投資活動報告」を作成しました。

引き続き、持続可能な社会の実現に向けて、ESG投資・スチュワードシップ活動を通じて、ステークホルダーの皆さまとともに、社会課題の解決に貢献していきたいと思っております。

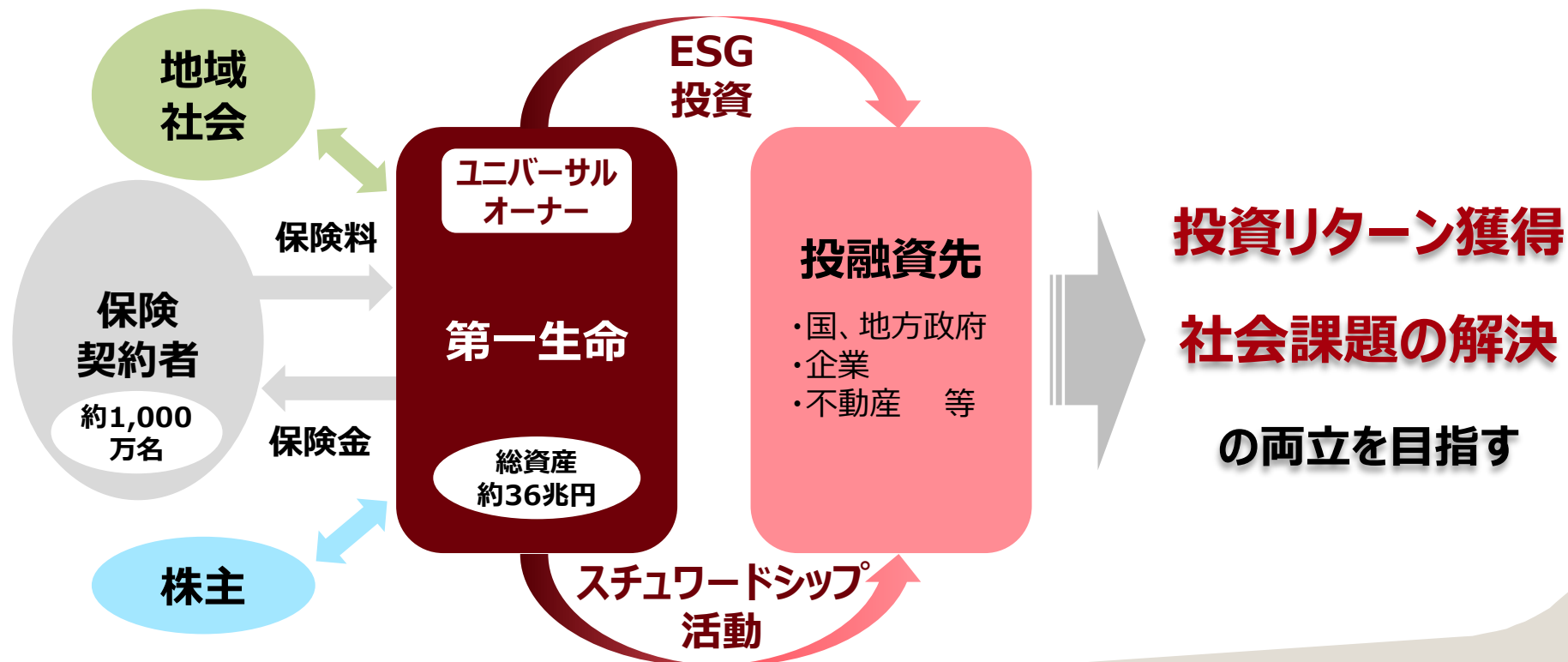


代表取締役社長  
稲垣 精二

2019年10月

# 第一生命が目指す姿

- ◆ 全国に約1,000万名のご契約者を抱え、幅広い資産を保有する「ユニバーサル・オーナー」として、多様なステークホルダーを意識した資産運用を行う必要があると認識しています。
- ◆ 生命保険会社の資産運用の高度化に向けた重点課題の一つとして責任投資（ESG投資・スチュワードシップ活動）を推進し、中長期的な投資リターンの獲得と社会課題の解決の両立を目指しています。





## ESG投資

### ESGテーマ型投資

ESGの課題解決に繋がるテーマを持つ資産に幅広く投資を行うことで、投資リターンの獲得と社会課題解決の両立を目指します。



P.17～

### ESG インテグレーション

ESG要素を体系的に投資プロセスに組み込むことで、中長期的な投資リターンの向上と社会課題解決への貢献を目指します。



P.27～

## スチュワードシップ活動

### エンゲージメント (対話)

スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コードを踏まえ、投資先企業と建設的な対話を実施し、企業の持続的な成長を促すことで、中長期的な投資リターン向上を目指します。



P.32～

### 議決権行使

投資先企業の企業価値向上と持続的成長を促す観点から設定している議決権行使基準をもとに、エンゲージメントの内容も踏まえて、株主総会議案を精査し、賛否の判断を行います。

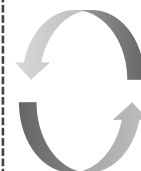


P.32～

- ◆ 社外委員が過半を占める「責任投資委員会」の審議を経て責任投資に関する重要な方針等を策定し、「責任投資会議」における進捗フォロー・議論等を通じて、資産運用部門全体の取組を推進しています。
- ◆ また、PRIの年次アセスメント結果を活用し、グローバル水準を踏まえた取組のレベルアップを実施しています。



アセスメント  
結果受領



年次  
レポート提出

Signatory of:



2005年に策定。責任投資のグローバルスタンダード。持続可能な社会の実現のため、ESG課題を投資判断に組み込むことを提唱。

# (参考) 責任投資委員会の体制・開催実績

- ◆ 経営戦略・ガバナンス・ESG投資等に関して豊富な専門知識を有する社外有識者が過半数を占める構成とし、社外の幅広い意見を反映できる体制としています。
- ◆ 社外有識者のほか、コンプライアンス担当役員が委員に加わることで、責任投資の重要な方針や、重要な議決権行使などについて、生命保険契約との利益相反管理の観点も踏まえて審議・確認しています。

## 委員構成

氏名・役職

出席回数

社内委員		<b>委員長 重本 和之</b> 責任投資推進室担当執行役員	3回 /3回 (前任含む)
		<b>岡本 一郎</b> コンプライアンス統括部担当執行役員	3回 /3回
社外委員		<b>菱田 哲也</b> 株式会社経営共創基盤 パートナー・常勤監査役	3回 /3回
		<b>松山 遙</b> 弁護士 日比谷パーク法律事務所パートナー	3回 /3回
		<b>黒岩 喜久男</b> 元ロベコ・ジャパン株式会社 代表取締役社長	2回※ /3回

## 開催実績

<2018年7月～2019年6月>

開催時期	主な審議・報告事項
2018年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2017年度の重要議案に対する議決権行使結果※</li> <li>• 2018年度スチュワードシップ活動方針</li> <li>• 2018年PRIアセスメント結果を踏まえた2019年のレベルアップに向けた取組</li> </ul>
2019年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2019年度ESG投資方針</li> <li>• 「議決権行使基準」の改正</li> <li>• 不祥事発生企業の株主総会議案の賛否※</li> </ul>
2019年6月 (臨時開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 不祥事発生企業／ガバナンス上の問題が発生している企業の株主総会議案の賛否※</li> </ul>

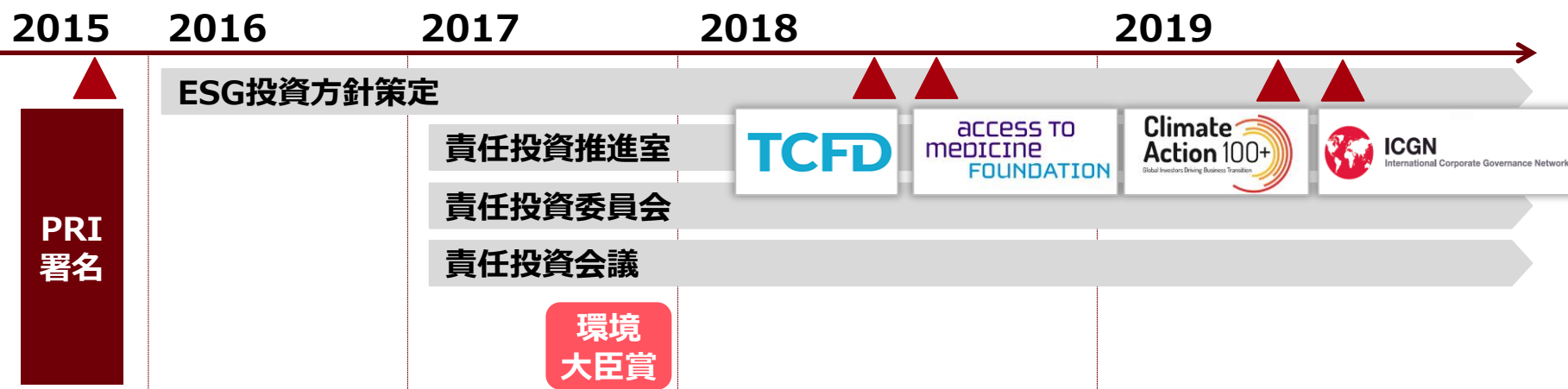
※利益相反管理統括所管にて行使判断に問題ない旨を検証

(2019年10月時点)

※欠席回は審議事項について書面にて意見表明

# (参考) 責任投資の体制整備 (これまで・今後)

- ◆ PRI署名以降、社内の責任投資推進体制の整備を進め、2017年度に環境大臣賞を受賞しました。
- ◆ 国際的なイニシアチブに積極的に参画し、グローバルな動向をいち早く取り入れるよう取り組んでいます。



## ● 環境大臣賞の受賞 (2018年3月)

環境大臣賞授賞式の様子



代表取締役社長 稲垣 中川環境大臣 (当時)

### 選定理由

- 機関投資家としての社会的責任を踏まえた投資を従前より推進し、ESGテーマ型投資やESGインテグレーションを体系的に取り組んできた点。
- 毎年「ESG投資方針」を策定し、責任投資会議・責任投資委員会を新設するなど、責任投資の推進体制を整備していることが先進的な取組である点。



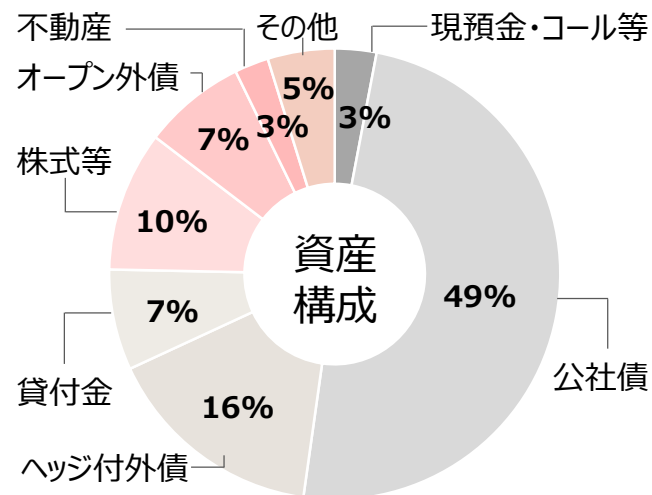
# ハイライト ～責任ある機関投資家として～

## 資産残高

### 運用資産

約 **36** 兆円

※2018年度末



## ESGテーマ型投資

### 投資残高

約 **4,000** 億円

#### SDGs債

約 **1,600** 億円

#### 再生可能エネルギー発電関連 プロジェクト・ファイナンス

約 **1,200** 億円

#### インパクト 投資

約 **64** 億円 (13件)

※2019/9月現在

## エンゲージメント

### 対話社数

**251** 社

### 役員面談率

約 **61** %

※2018年度

### 国内株式ポートフォリオにおける対話企業の割合

3年累計

約 **92** %

2018年度

約 **59** %

(保有時価ベース)

# ハイライト ～責任ある機関投資家として～

## PRIアセスメントの結果

- ◆ 2019年PRIアセスメントでは、昨年に続き、全分野でグローバル平均（※）以上の評価を獲得しました。
- ◆ アセスメント結果を踏まえて、今後は更に責任投資の取組のレベルアップを行っていきます。

※2019/10月時点のPRI署名機関数：2622社（署名機関の運用資産残高は、世界の総運用資産残高の8割以上）

分野	2018年 (評価期間:2017/1～12)		2019年 (評価期間:2018/1～12)		結果を踏まえた今後の主な取組
	当社評価	(平均)	当社評価	(平均)	
戦略とガバナンス	A	(A)	A	(A)	気候変動リスク・機会のインテグレーション強化
上場株投資	A	(B)	A	(B)	外国株式のリサーチへのESG要素の組込開始
スチュワードシップ活動	A+	(B)	A+	(B)	国内外の協働エンゲージメントへの参画
債券投資	B	(B)	A	(B)	債券投資家としてのエンゲージメントの方針策定
不動産投資	A+	(B)	A+	(B)	(グローバルな動向を踏まえ、更なるレベルアップを検討)

※債券投資は、4分野（国債等、社債（金融）、社債（非金融）、証券化商品）の平均を記載

# ハイライト ～責任ある機関投資家として～

## イニシアティブへの参画

Signatory of:



(2015年11月署名)

2005年に、当時のコフィー・アナン国連事務総長の呼びかけで策定された原則。責任投資のグローバルスタンダード。持続可能な社会の実現のため、ESG課題を投資判断に組み込むことを提唱。



国内生保  
初の署名

(2019年8月署名)

温室効果ガス排出量の多い企業に対し、排出量削減に向けた取組やその情報開示などについて建設的対話を行う、機関投資家のイニシアティブ。



国内生保  
初の署名

(2018年9月署名)

2015年12月に、G20からの要請に基づき、金融安定理事会（FSB）が設置したタスクフォース。気候変動に関する機会とリスクを把握し、情報開示を促す提言を公表。



国内生保  
初の署名

(2018年9月署名)

開発途上国の医薬品アクセス改善のため、世界の製薬企業上位20社を評価（インデックス公表）。機関投資家がインデックスを投資判断に組み込むことで医薬品アクセス改善を促進させることを目的とする。



(2011年より参画)

「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」。2011年10月に策定された、持続可能な社会の形成に向けた行動を促す、金融機関の行動指針。



ICGN  
International Corporate Governance Network

国内生保  
初の署名

(2019年9月署名)

コーポレート・ガバナンスと投資家のスチュワードシップの実効的な水準の向上を通じ、世界全体の効率的な市場と持続可能な経済の発展を推進することを目的とするイニシアティブ。

# ハイライト ～責任ある機関投資家として～

## 普及促進の取組

✓ ESG投資の市場発展に貢献し、持続可能な社会の実現とESG投資の収益力向上を目指しています。

### 政府の会議体・研究会等への参画

#### ◆ 環境省

ESG金融ハイレベルパネル  
(2019年2月28日)



(代表取締役社長 稲垣精二)

#### ◆ 野村資本市場研究所

ESG債市場の持続的発展に関する研究会  
(2018年2月～2019年6月)



野村証券/Bloomberg共催セミナー「サステナブルファイナンスの時代 ESG/SDGsと債券市場」同研究会の報告書『サステナブルファイナンスの時代 ESG/SDGsと債券市場』、金融財政事情研究会

### 生保協会の取組

◆ 2018年度のESG投融資推進WGとスチュワードシップ活動WGの座長に就任。活動成果としてレポートを発行。



『生命保険会社の資産運用を通じた『株式市場の活性化』と『持続可能な社会の実現』に向けた取組について』

### 各種セミナー登壇

◆ JPX・PRI共催「TCFDフォーラム」  
(2019年6月11日)



(エグゼクティブ・サステナブルファイナンス・スペシャリスト 銭谷美幸)

◆ PRI in Person 2019  
(2019年9月10日-12日)



### 各種雑誌への掲載

◆ Disclosure & IR (2019年8月号)  
「新たなステージに入ったESG投資」

◆ 週刊金融財政事情 (2019年9月9日号)  
「運用収益と社会的成果の両立を目指す第一生命のインパクト投資」

◆ オル・イン 9月号 (Vol.53) 別冊「ESG2019」  
「ポジティブ・インパクト投資にも注力 気候変動への対応が今年度の重点テーマ」

1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	



# これまでのESG投資の取組と2018年度の振り返り

- ◆ 2015年のPRI署名以降、ESG投資の取組を拡大させ、継続的なレベルアップに取り組んでいます。
- ◆ 2018年度は、ESGテーマ型投資のモニタリング強化や、国内株式ESGファンドの改良を行いました。



債券投資家としてのエンゲージメント開始

## ESGテーマ型投資

### 3つの重点テーマにおける投融資を積極化

#### ◆ QOL向上

ヘルスケア分野におけるイノベーション創出を行うベンチャー企業への投資等を通じて、健康寿命の延伸などのQOL向上に貢献



予防接種のための国際金融ファシリティが発行するワクチン債へ投資

#### ◆ 気候変動

再生可能エネルギー発電関連のプロジェクト・ファイナンスやグリーンボンド等への投融資を通じて、気候変動問題の解決に貢献



風力発電のプロジェクトファイナンスへの投融資

#### ◆ 地方創生・地域活性化

地方創生・地域活性化に資する資産への投融資・不動産開発を通じて、保険契約者のQOL向上にも貢献



虎ノ門二丁目再開発事業への投資

## ESGインテグレーション

### 市場変動へ即応可能な態勢を早期に構築

#### ◆ 気候変動問題への対応強化

- リサーチへのESG要素の組込において、気候変動へのリスクと機会の観点で分析を開始（株・クレジット）
- 投資先企業に対して、エンゲージメントを通じてTCFDに基づく情報開示の働きかけを開始



TCFD

#### ◆ 取組の拡大

- インハウスのESGファンド運用について、国内株式に加え、外国株式でも開始
- 外国株式のリサーチにおいてESG要素の組込を開始



# (参考) ESG投資手法の定義

ESG投資手法	定義
ESGテーマ型投資	収益性を前提とした、社会課題解決に繋がるテーマを持った資産等への投資
インパクト投資	運用収益の獲得と社会的インパクトの創出（社会の構造変化等）の両立を意図して投資判断を行う投資手法
その他	SDGs債への投資、再生可能エネルギー発電関連のプロジェクト・ファイナンス、地方創生・地域活性化に資する投融資等
ESGインテグレーション	投資プロセスへのESG要素の体系的な組込
リサーチへの組込	企業分析・評価においてESG要素を体系的に組込
ポジティブ・スクリーニング	ESG格付等が高い企業でポートフォリオを構築
ネガティブ・スクリーニング	特定の業種・企業等をポートフォリオから除外
ESG対話	ESG課題に関する、投資先企業とのエンゲージメント活動

# 目次

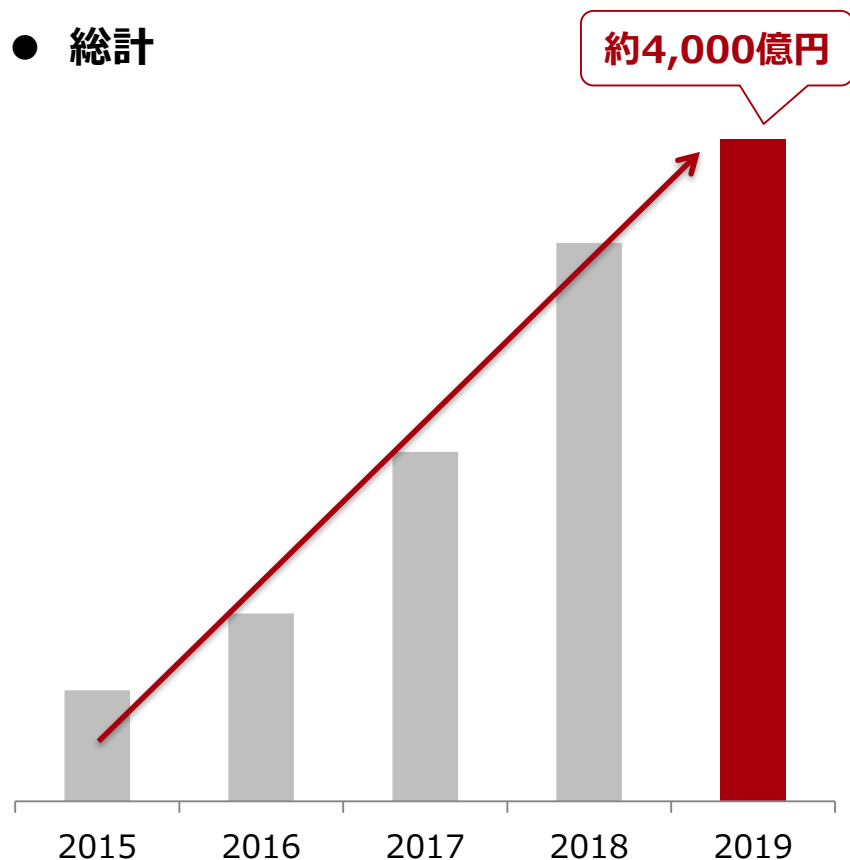
1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

# ESGテーマ型投資の実績

- ◆ ESGテーマ型投資は、順調に残高を積み上げており、現在約4,000億円に達しています。
- ◆ 主に、SDGs債やSDGs事業（社会インフラ整備・環境保全等）への投融資を積極化させています。

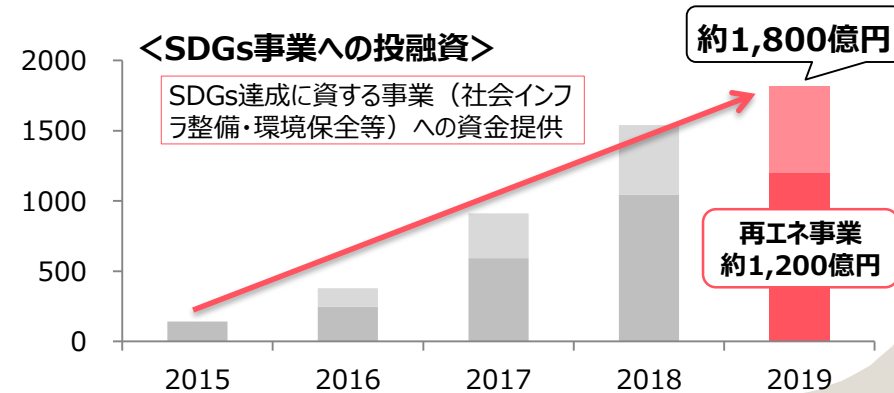
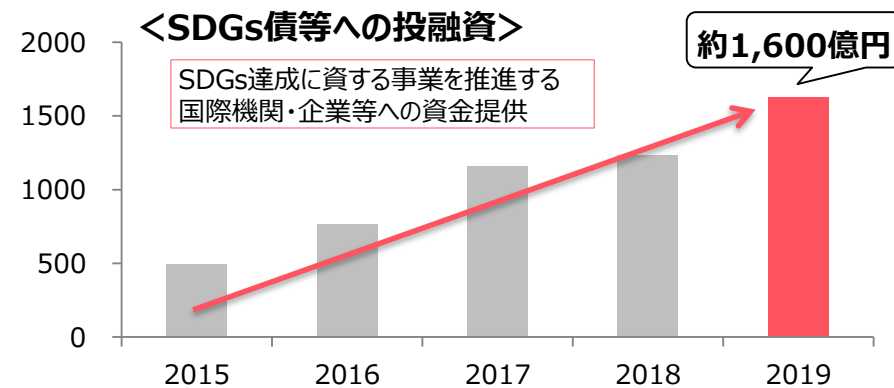
## <ESGテーマ型投資残高の推移>

### ● 総計



PRI署名

### ● 主な内訳



※ESGテーマ型投資には、上記の他、インパクト投資、地方創生・地域活性化に資する不動産投資等が含まれます。



# ESGテーマ型投資：SDGs債への投融資実績

合計投資残高 約1,600億円

SDGs達成に資する事業を推進する国際機関・企業等への資金提供  
(グリーンボンド・ソーシャルボンド・サステナビリティボンド等)

## 欧州

- 1** 貧困をなくそう  
**マイクロファイナンス・ボンド** (欧州復興開発銀行)  
・ 途上国の中小・零細企業への事業資金支援
- 3** すべての人に健康と福祉を  
**ヘルスボンド** (欧州復興開発銀行)  
・ 中東欧等の医療サービス向上支援
- 13** 気候変動に具体的な対策を  
**環境保全債** (欧州復興開発銀行)  
・ 中東欧等の再エネ事業等の支援

## 世銀グループ

- 8** 働きがいも経済成長も  
**インクルーシブ・ビジネス・ボンド** (国際金融公社)  
・ 低所得者層のビジネス参画への支援
- 13** 気候変動に具体的な対策を  
**グリーンボンド** (国際復興開発銀行)  
・ 気候変動の影響の緩和・適応に向けた事業の支援
- 3** すべての人に健康と福祉を  
**ワクチン債** (予防接種のための国際金融ファシリティ)  
・ 新たなワクチン開発の支援
- 2** 飢餓をゼロに  
**サステナブル・ディベロップメント・ボンド** (国際復興開発銀行)  
・ 食品ロス・廃棄問題への取組の支援

## アジア・太平洋

- 3** すべての人に健康と福祉を  
**ヘルスボンド** (アジア開発銀行)  
・ アジア太平洋地域の保健衛生支援
- 5** ジェンダー平等を實現しよう  
**ジェンダーボンド** (アジア開発銀行)  
・ アジア・太平洋地域の女性活躍支援

## 日本

- 13** 気候変動に具体的な対策を  
**東京グリーンボンド** (東京都)  
・ 東京都のスマートシティ化の支援

## アフリカ

- 2** 飢餓をゼロに  
**フィード・アフリカ・ボンド** (アフリカ開発銀行)  
・ アフリカの農業・農業ビジネス支援
- 9** 産業と技術革新の基盤をつくろう  
**ライト・アップ・アンド・パワー・アフリカ・ボンド** (アフリカ開発銀行)  
・ アフリカの電力・エネルギーインフラ整備の支援

## ラテンアメリカ、カリブ海諸国

- 4** 質の高い教育をみんなに  
**EYE ボンド** (米州開発銀行)  
・ 教育、若年層支援、雇用支援

※国際開発金融機関、政府等によって発行された案件を掲載

# ESGテーマ型投資：SDGs債への投融資実績（直近の主な案件）

第一生命

Dai-ichi Life Group

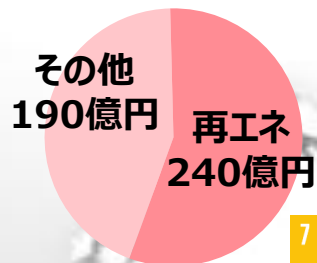
案件名・案件概要	投資金額	重点テーマ		
<p><b>グリーンボンド</b>                      (国際復興開発銀行)                      —気候変動の影響の緩和・適応に向けた事業の支援</p>	<p>108億円</p> <p>2019/6 投資</p>	<p>気候 変動</p>		<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 
<p><b>環境保全債</b>                      (欧州復興開発銀行)                      —中東欧等の再エネ事業等の支援</p>	<p>108億円</p> <p>2019/6 投資</p>	<p>気候 変動</p>		<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 
<p><b>サステナブル・ディベロップメント・ボンド</b>                      (国際復興開発銀行)                      —食品ロス・廃棄問題への取組の支援</p>	<p>108億円</p> <p>2019/7 投資</p>	<p>QOL 向上</p>		<p>2 飢餓を ゼロに</p> 
<p><b>ワクチン債</b>                      (予防接種のための国際金融ファシリティ)                      —新たなワクチン開発の支援</p>	<p>52億円</p> <p>2019/7 投資</p>	<p>QOL 向上</p>		<p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> 

# ESGテーマ型投資：SDGs事業への投融資実績

合計投資残高 約1,800億円

SDGs達成に資する事業（社会インフラ整備・環境保全等）への資金提供

## 欧州



ドイツ：洋上風力発電  
(17年1月)

## 北米

再エネ  
120億円



米国：省エネ型LNG  
発電（15年4月）

## 日本

その他  
75億円

再エネ  
740億円



福島県：太陽光発電  
(15年8月)

## アジア・太平洋

再エネ  
71億円

その他  
290億円



トルコ：病院整備運営  
(17年7月)

## アフリカ

その他  
60億円



コートジボワール：政府向け  
インフラ資金融資（19年6月）

## 南米

再エネ  
27億円



ペルー：鉄道開発  
(19年3月)

# ESGテーマ型投資：再生可能エネルギー発電事業への投融資実績

投資残高 約1,200億円

再生可能エネルギーの区分	投資残高	重点テーマ
<b>太陽光発電事業</b> へのプロジェクト・ファイナンス	<b>約510億円</b> 国内 約440億円    海外 約70億円	<b>気候変動</b> 
<b>風力発電事業</b> へのプロジェクト・ファイナンス	<b>約420億円</b> 国内 約110億円    海外 約310億円	<b>気候変動</b> 
<b>バイオマス発電事業</b> へのプロジェクト・ファイナンス	<b>約270億円</b> 国内 約210億円    海外 約60億円	<b>気候変動</b> 

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



13 気候変動に  
具体的な対策を



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



13 気候変動に  
具体的な対策を



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



13 気候変動に  
具体的な対策を



# ESGテーマ型投資：インパクト投資の実績一覧

投資残高 64億円（13件）

運用収益の獲得と社会的インパクトの創出（社会の構造変化等）の両立を意図した投資

	企業名	事業概要	投資金額	企業名	事業概要	投資金額
QOL向上	 CureApp	ニコチン依存症等の治療アプリの研究	10億円	 QD LASER	低視力患者向けアイウェア等の開発	3億円
	 SUSMED Sustainable Medicine	不眠症治療用アプリの研究・開発	1億円	 Neurotrack	目の動きで認知機能を測る「認知機能テスト」等の開発	8億円
	 MELTIN	危険環境下の労働代替が期待できるアバターロボットの開発	3億円	 Integral Geometry Science	乳がんの早期発見を実現する診断システムの開発	2億円
	 MOLCURE	AIを活用した医薬品開発プラットフォームの開発	1億円	 UniFa	スマート保育園の実現に向けたIoTやAIを活用したソリューションの開発	3億円
気候変動	 Spiber	化石燃料を原料とした素材に代わる新世代バイオ素材の開発	10億円	 株式会社環境エネルギー投資	環境・エネルギー分野に特化したベンチャーファンド	10億円
	 Challenergy	「台風でも発電できる」風力発電機の開発	2億円			
その他	Gojo & Company, Inc.	発展途上国におけるマイクロファイナンス事業	10億円	 CROWD CREDIT	「融資型クラウドファンディング」サービスの提供	1億円

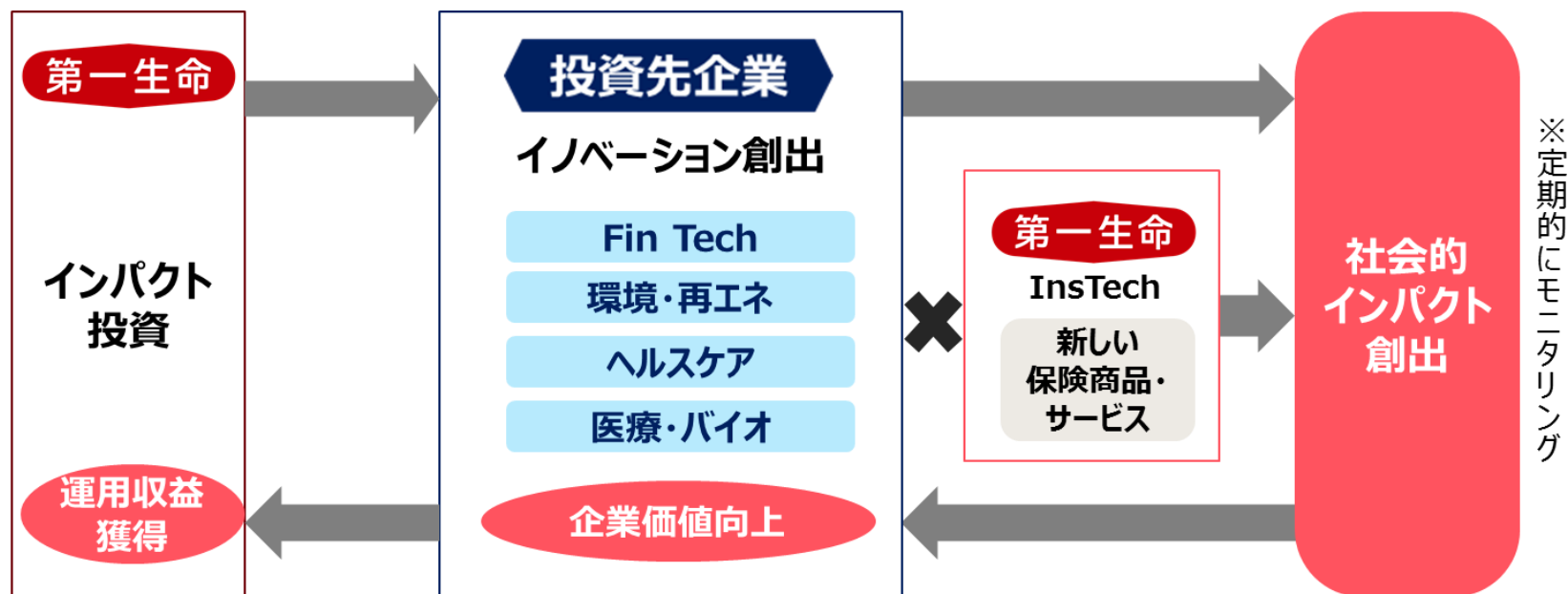


# ESGテーマ型投資：インパクト投資の実績（直近の主な案件）

投資先企業名・事業概要	社会的インパクト	投資金額	重点テーマ		
<p><b>チャレナジー</b> —強風下でも発電可能な風力発電機の開発</p>	<p>ディーゼル発電の 代替などによる <b>CO2排出量削減</b></p>	<p><b>2億円</b> 2019/2 投資</p>	<p><b>気候 変動</b></p>		<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 
<p><b>ニューロ・トラック</b> —目の動きで認知機能を測る「認知機能テスト」 等のアプリの開発</p>	<p>認知症の予防 を通じた <b>健康寿命延伸</b></p>	<p><b>8億円</b> 2019/7 投資</p>	<p><b>QOL 向上</b></p>		<p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> 
<p><b>Integral Geometry Science</b> —乳がんの早期発見と検診の負担軽減を実現 するシステムの開発</p>	<p>乳がん早期発見 による<b>死亡率低減</b></p>	<p><b>2億円</b> 2019/9 投資</p>	<p><b>QOL 向上</b></p>		<p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> 
<p><b>ユニファ</b> —保育士が働きやすいスマート保育園の実現に 向けたIoTやAIを活用したソリューションの開発</p>	<p><b>待機児童問題 の解決</b></p>	<p><b>3億円</b> 2019/9 投資</p>	<p><b>QOL 向上</b></p>		<p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p>  <p>8 働きがいも 経済成長も</p> 

# (参考) インパクト投資の狙い

## ◆ インパクト投資の狙い



### 案件選定の視点

① 経営者が社会課題解決に向けた  
**明確なビジョン**を有していること

② 一定の実現可能性があること  
(※以下の観点等を考慮して、総合的に判断)

**事業の革新性**

**市場シェア**

# ESGテーマ型投資：地方創生・地域活性化

## 慶應義塾大学先端生命科学研究所との包括連携協定

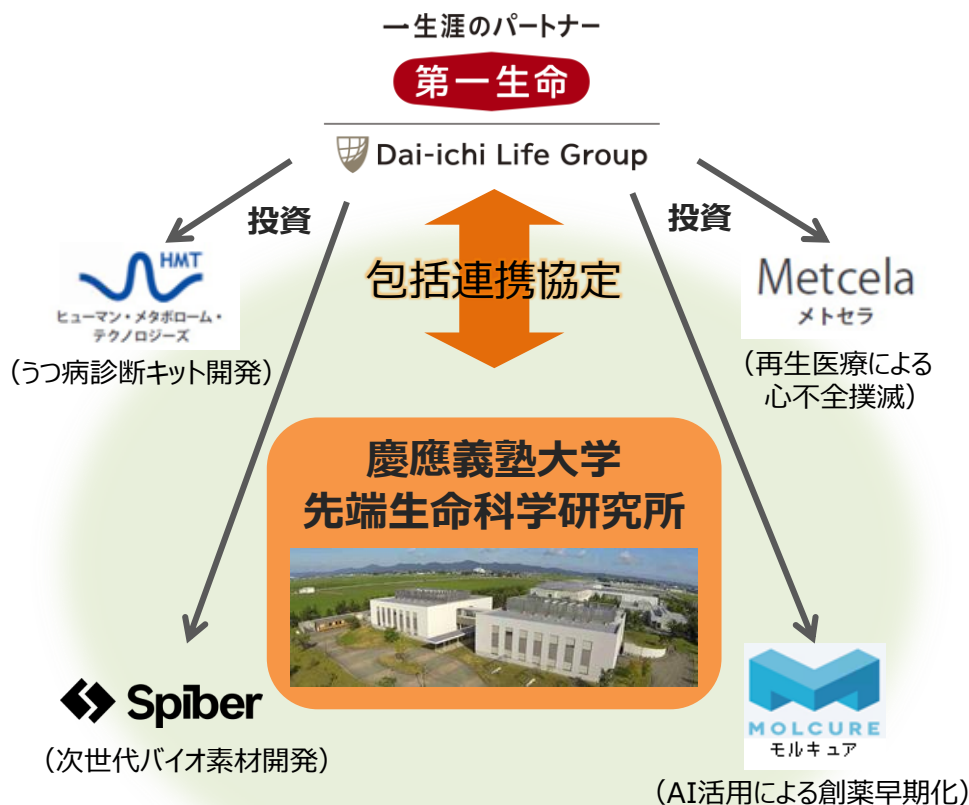
2018/8  
締結

一連携協定の一環として実証実験やベンチャー投資を行い、先端研発イノベーションの社会実装を後押ししています。

## 虎ノ門二丁目再開発事業

2019/3  
投資決定

一生命保険事業で培ったQOL向上のノウハウを再開発のプランニングに活用し、地域活性化に貢献していきます。

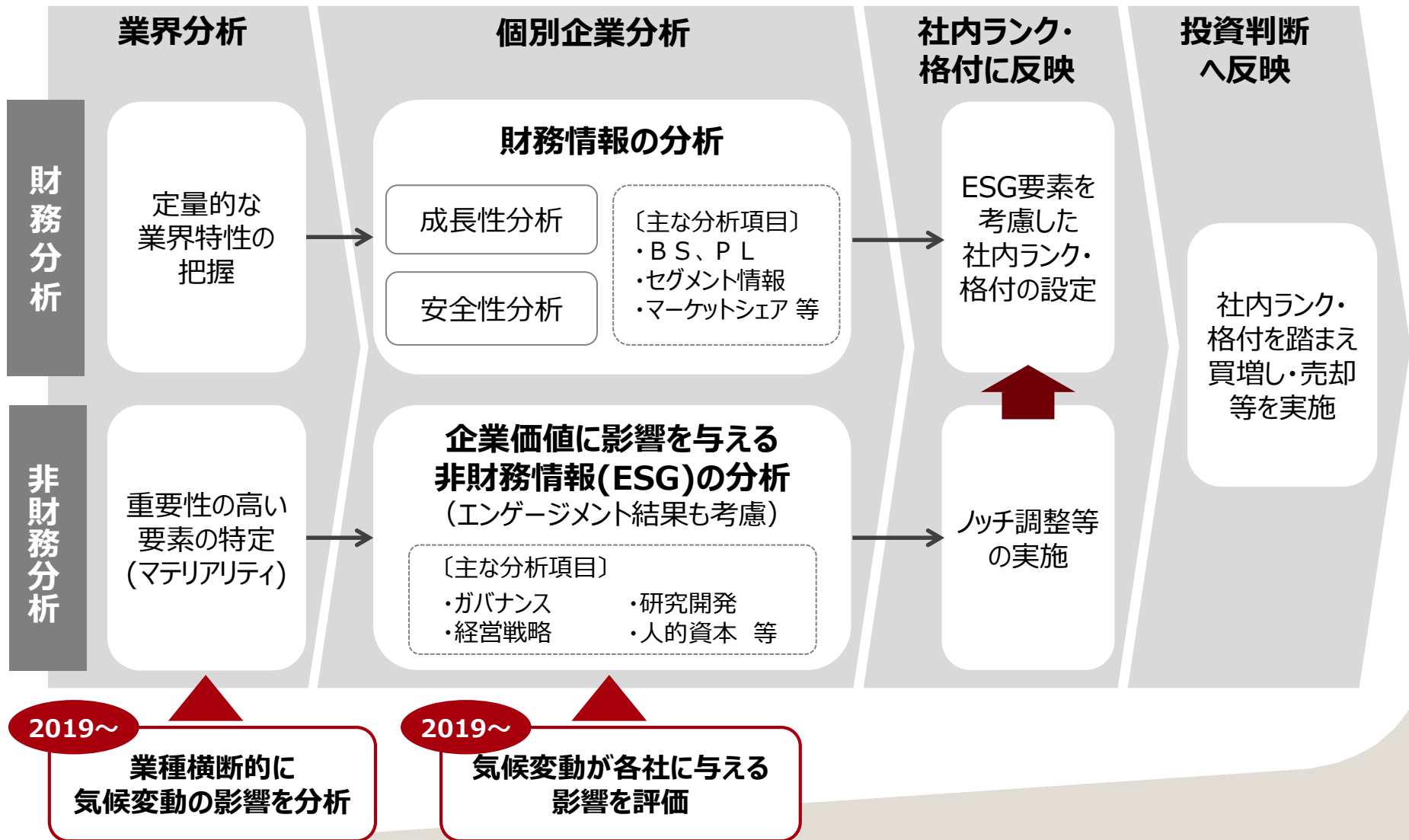


## 鶴岡バイオサイエンスパーク



1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

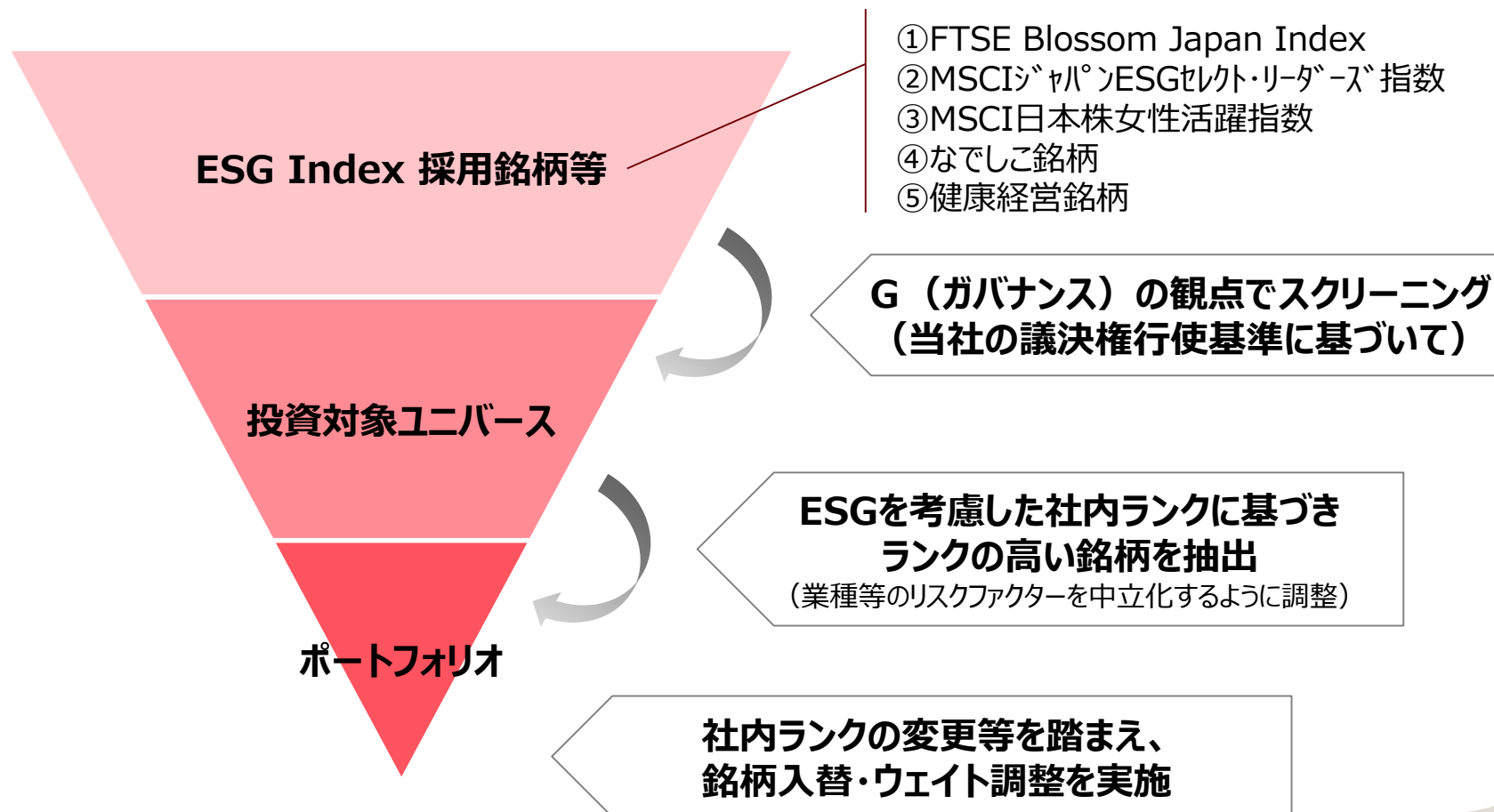
## リサーチへの組込（株式・クレジット）



# ESGインテグレーションの取組事例

## ポジティブ・スクリーニング（国内株式）

### ◆ 国内株式のESGファンド構築手法

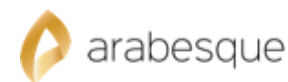




# ESGインテグレーションの取組事例

## ポジティブ・スクリーニング（外国株式）

### ◆ 外国株式のESGファンド構築手法

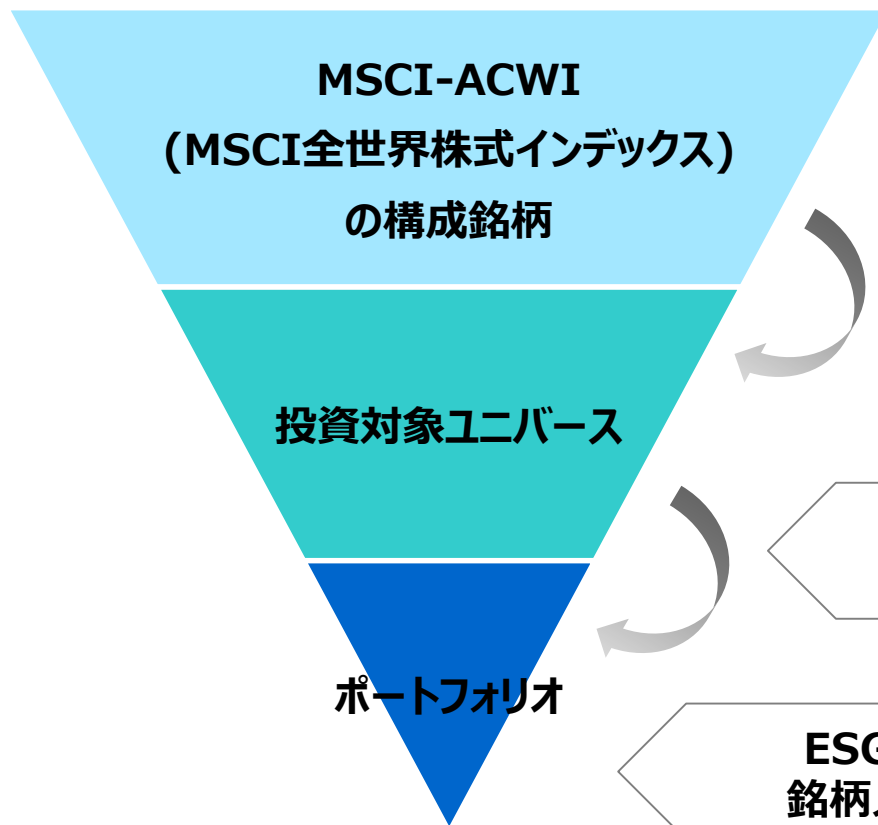


#### 【会社概要】

- 2017年設立のESGベンダー／本社拠点ドイツ
- 主な顧客は欧米、アジアの銀行や保険、年金基金や格付会社。State StreetやJP Morganなどのカストディ業務での活用やS&Pのインデックスにスコアが使用されるなどの実績あり。

#### 【ESGスコア】

世界の上場企業7000社超のESG関連データを日次で収集し、AIを用いてESGスコアを算出



ESGベンダー（アラベスク）  
のESGスコアでスクリーニング

国、通貨、業種等の各種リスク  
ファクターを中立化するように最適化

ESGスコアの変動を確認し、  
銘柄入替・ウェイト調整を実施

# ESGインテグレーションの取組事例

## ネガティブ・スクリーニング

- ◆ 生命保険事業の特性や持続可能性の観点から、以下の分野については、投融資禁止としています。  
(ネガティブ・スクリーニングの対象は、国内外の社会情勢等も踏まえて、継続的に追加を検討していきます。)

### ● ネガティブ・スクリーニングの対象

スクリーニング対象分野	対象資産
クラスター弾の製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株式投資</li> <li>● 債券投資</li> <li>● 企業融資</li> <li>● プロジェクト・ファイナンス</li> <li>● 不動産投資</li> </ul>
石炭火力発電	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクト・ファイナンス</li> </ul>

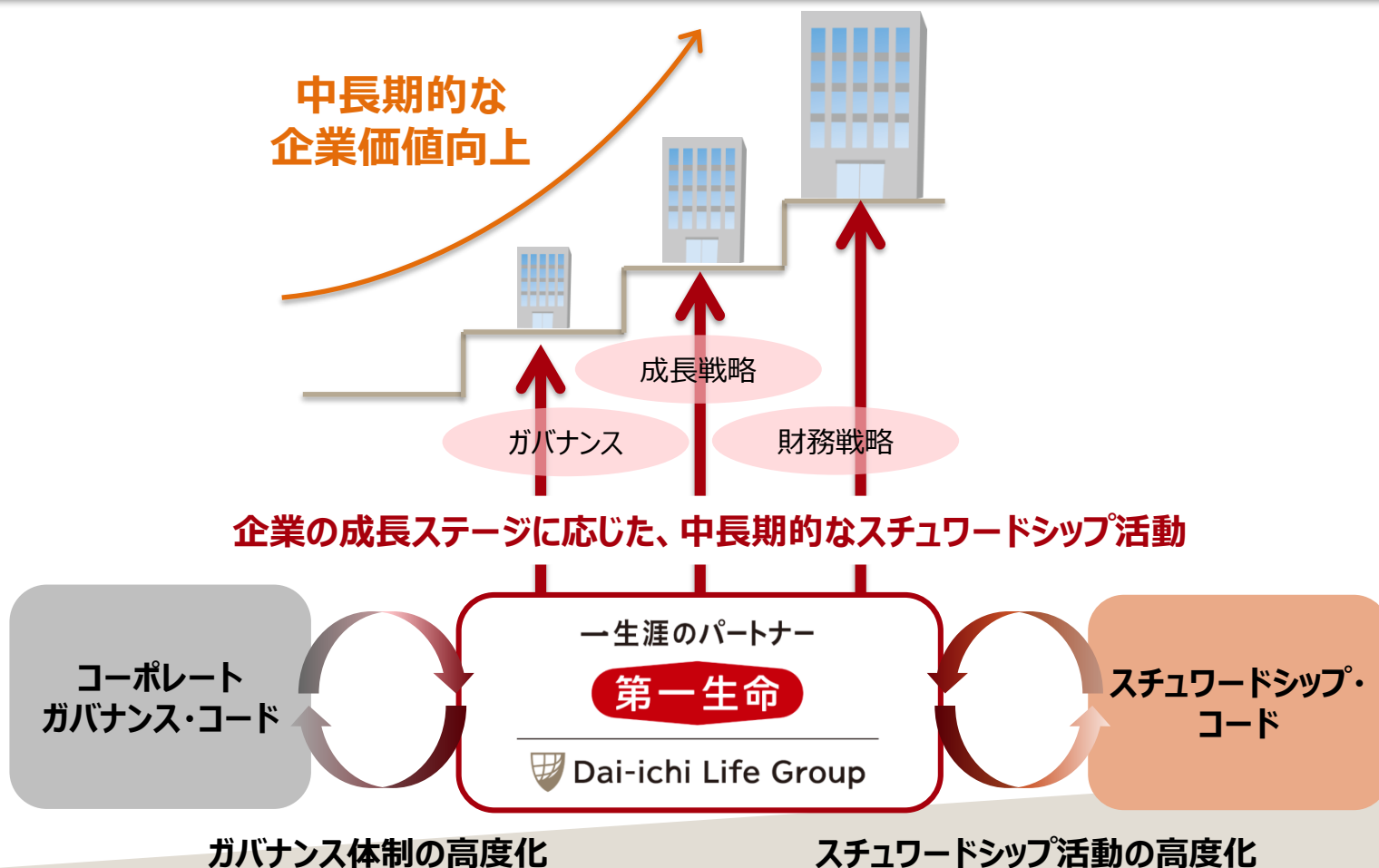
### ● ネガティブ・スクリーニングのプロセス



1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

# スチュワードシップ活動の基本的な考え方

- ◆ 「一生涯のパートナー」をグループミッションに掲げる「第一生命らしい」スチュワードシップ活動として、成長ステージ毎に異なる投資先企業の課題に寄り添い、中長期的な企業価値向上の支援に取り組んでいます。
- ◆ 上場機関投資家としての第一生命ならではの付加価値を提供するべく、スチュワードシップ・コードおよびコーポレートガバナンス・コードの両コードを踏まえ、取組の高度化を積極的に推進しています。



# スチュワードシップ活動のプロセス

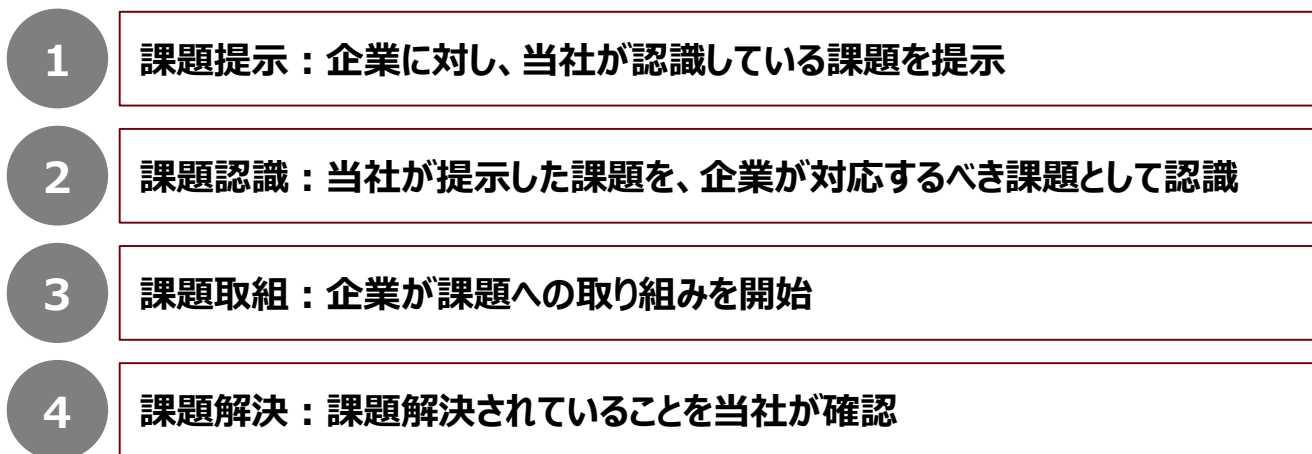
◆ エンゲージメントを重視したスチュワードシップ活動を通じて、投資先の企業価値向上を促し、当社の中長期的な投資リターンの向上を目指します。



# エンゲージメントの課題進捗フォロー

◆ エンゲージメントを踏まえた課題の進捗状況を定期的にフォローし、課題に応じた情報提供の実施などを通じて、投資先企業の課題解決を支援しています。

## 4段階のマイルストーン管理



情報提供等を通じて課題解決を支援

## テーマ毎の課題の事例

### ガバナンス

- 独立社外取締役
- 取締役会
- 政策保有株式
- 指名・報酬

### 環境・社会課題

- ESG課題の特定
- マテリアリティの特定・開示
- TCFD対応
- ダイバーシティ・人権

### 経営戦略

- 中期経営計画の策定・開示
- KPIの策定・開示
- 事業再構築
- 業績改善

### 財務戦略

- 株主還元方針の策定・開示
- 自己株の活用方針の策定・開示
- 総還元性向の向上
- 資本政策の策定・開示



# これまでのスチュワードシップ活動

- ◆ 体制強化を通じたエンゲージメント社数の増加・テーマの多様化、議決権行使に関する情報開示充実による透明性向上等を通じて、エンゲージメントに重点を置いたスチュワードシップ活動を継続的にレベルアップしてきました。
- ◆ 企業を取り巻く環境変化を踏まえ、2018年度より「環境・社会課題」を主要テーマに加えたエンゲージメントを本格的に開始しています。

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
エンゲージメント 従事者数 (専任担当者数)	14名 (0名)	17名 (2名)	17名 (3名)	19名 (6名) <b>責任投資推進室新設</b>	20名 (7名)
エンゲージメント 企業	110社	233社	277社	271社	251社
	<b>3年毎累積でポートフォリオの時価総額の9割をカバー</b>				
			協働エンゲージメント (生保協会)	約100社 (書簡送付)	約110社 (書簡送付・対話)
エンゲージメント テーマ	コーポレート・ガバナンス			環境・社会課題	ESG <b>本格開始</b>
	経営戦略				
	財務戦略				
議決権行使 結果の開示	議決権行使結果の集計表（議案種類毎）の開示			議決権行使基準の詳細開示	
	議決権行使基準の概要開示			個別議案毎の賛否開示（四半期毎）	

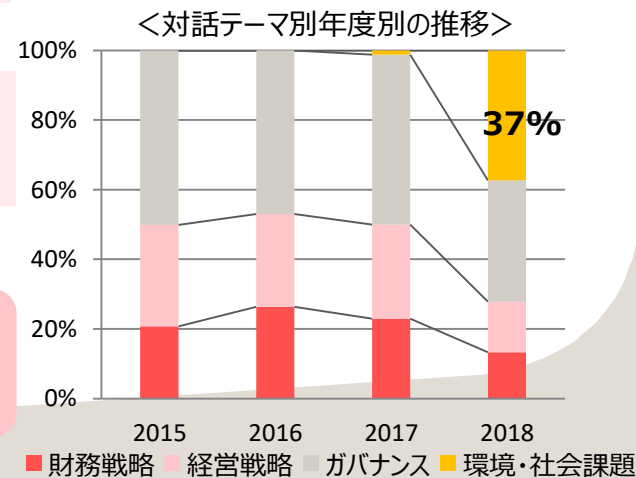
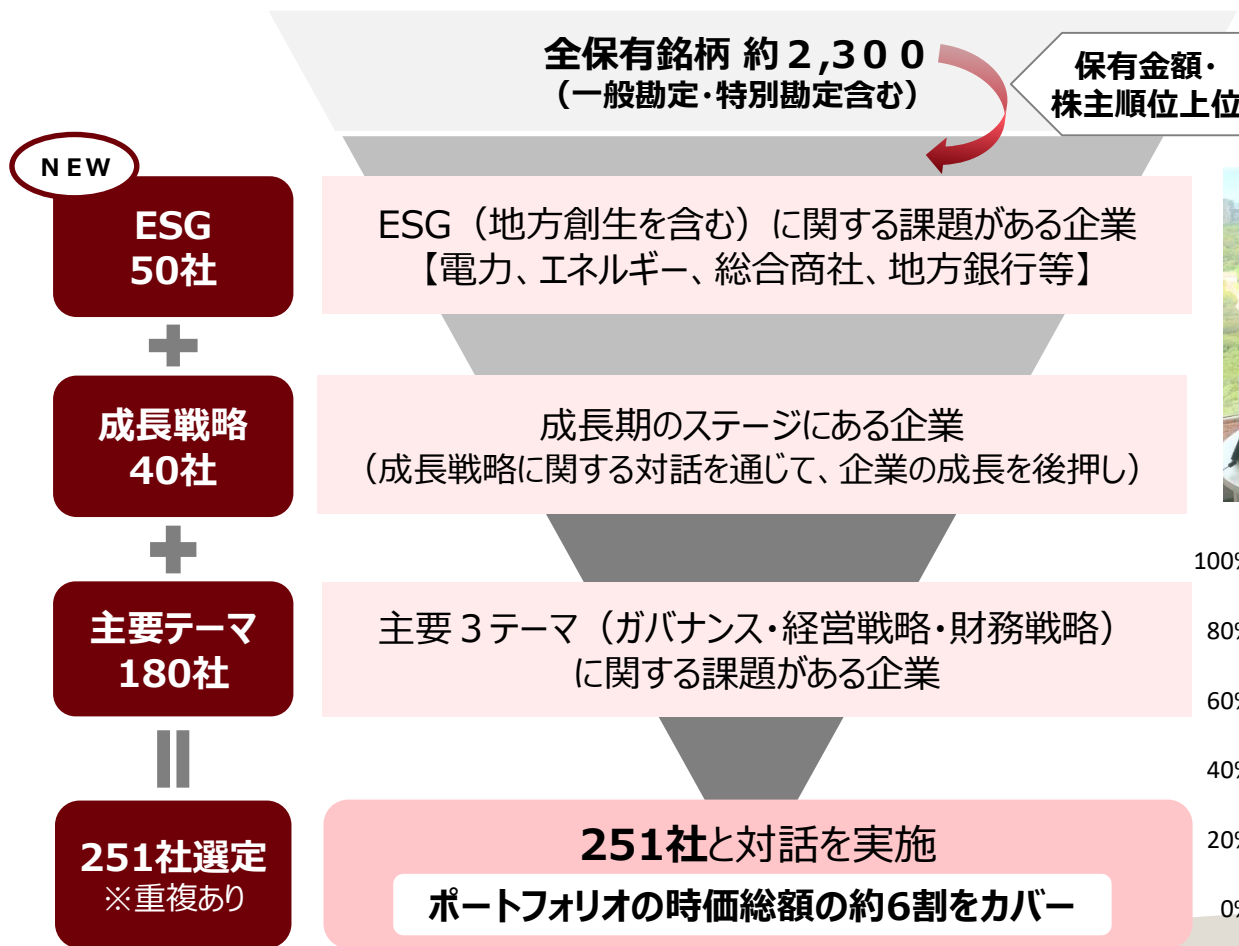
SSC受入表明

透明性  
向上

# スチュワードシップ活動の2018年度振り返り

(対象期間：2018年7月～2019年6月)

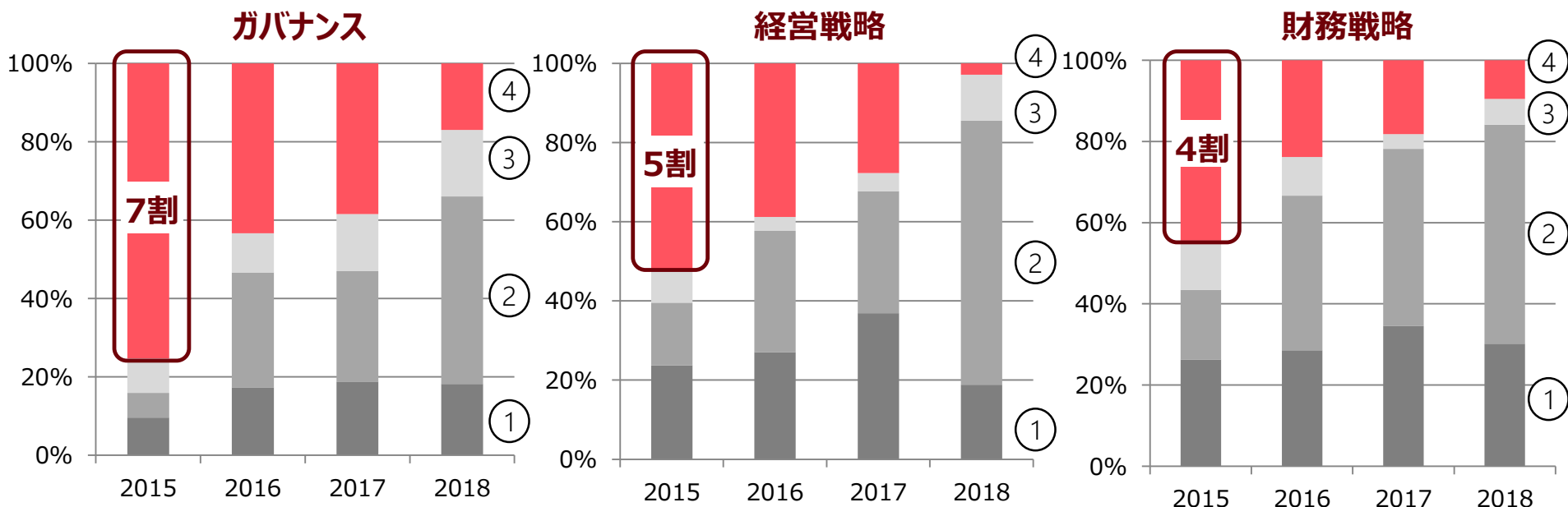
- ◆ エンゲージメント対象先として、保有金額や株主順位上位等の重要性の観点から踏まえつつ、ESG（地方創生を含む）や成長戦略のテーマに沿った企業など計251社を選定しました。
- ◆ ESG対話を本格開始したことで、環境・社会課題に関する対話テーマの割合が全体の4割弱に上りました。



# 中期的なエンゲージメントの成果

- ◆ 2015年度に企業へ提示した課題については、ガバナンス・経営戦略・財務戦略の順に進捗しています。
- ✓ ガバナンス課題は、外部環境の後押しもあり、約7割が解決しました。
- ✓ 財務戦略課題は、時間をかけて資金使途等に関する対話を行っています。

<年度毎に提示した課題の2019年6月末時点における状況>



## 対話のマイルストーン管理

- ① 課題提示：企業に対し、当社が認識している課題を提示
- ② 課題認識：当社が提示した課題を、企業が対応すべき課題として認識
- ③ 課題取組：企業が課題への取組を開始
- ④ 課題解決：課題解決されていることを当社が確認

対話の進捗

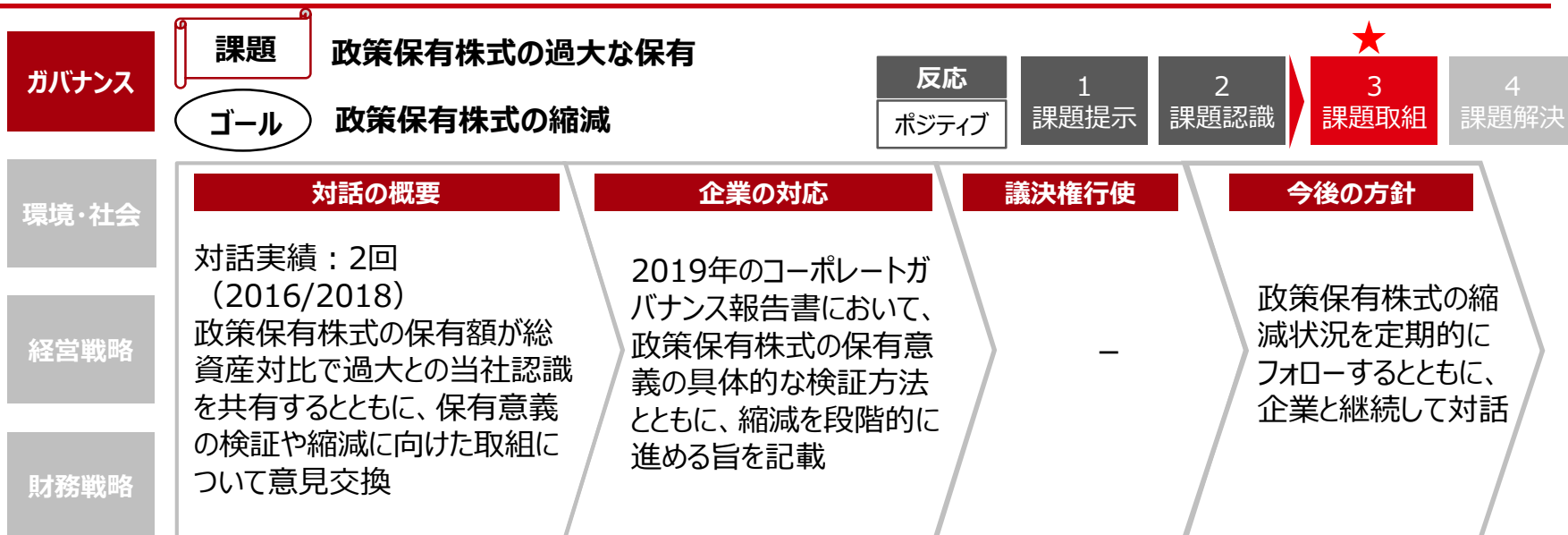


# 目次

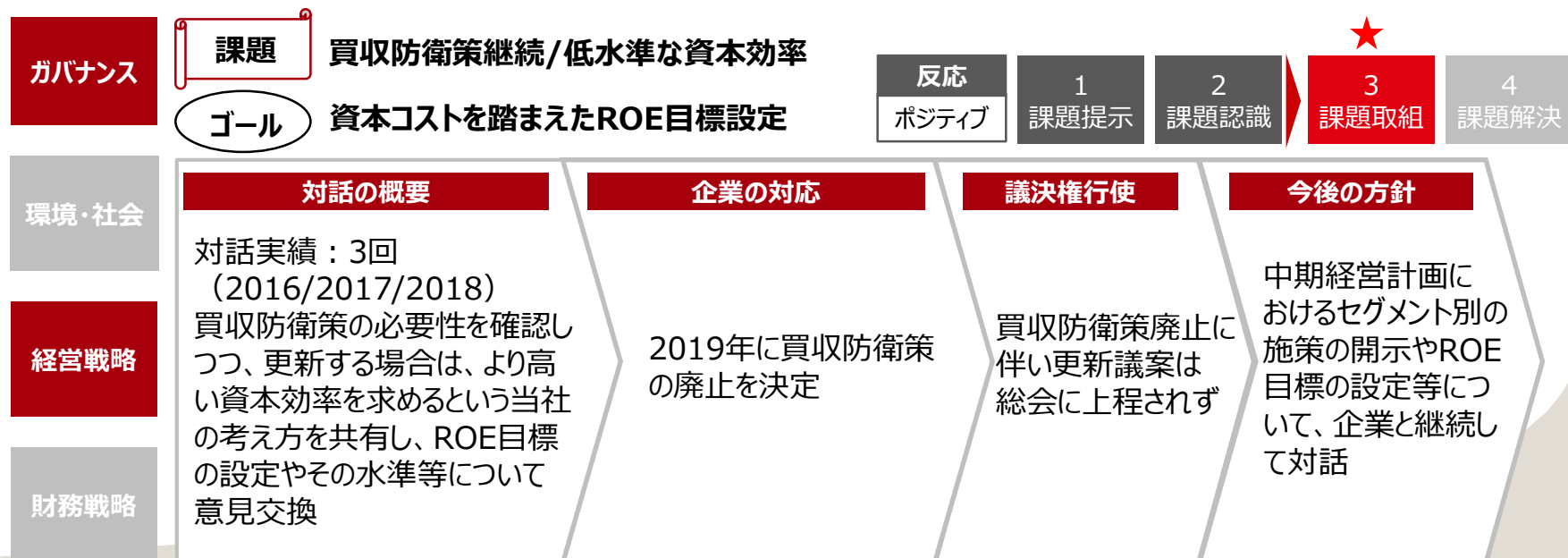
<b>1. トップメッセージ</b>	…2	<b>6. ESG投資の活動報告</b>	…13
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ 2019年度取組方針	
<b>2. 第一生命が目指す姿</b>	…3	✓ ESGテーマ型投資の実績	
		✓ ESGインテグレーションの取組事例	
<b>3. 責任投資のアプローチ</b>	…4	<b>7. スチュワードシップ活動報告</b>	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
<b>4. 責任投資の推進体制</b>	…5	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ <b>エンゲージメントの事例</b>	
<b>5. ハイライト</b>	…8	✓ 2019年度取組方針	
		✓ <b>参考資料</b>	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

# エンゲージメントの主な事例

**A社**  
建設

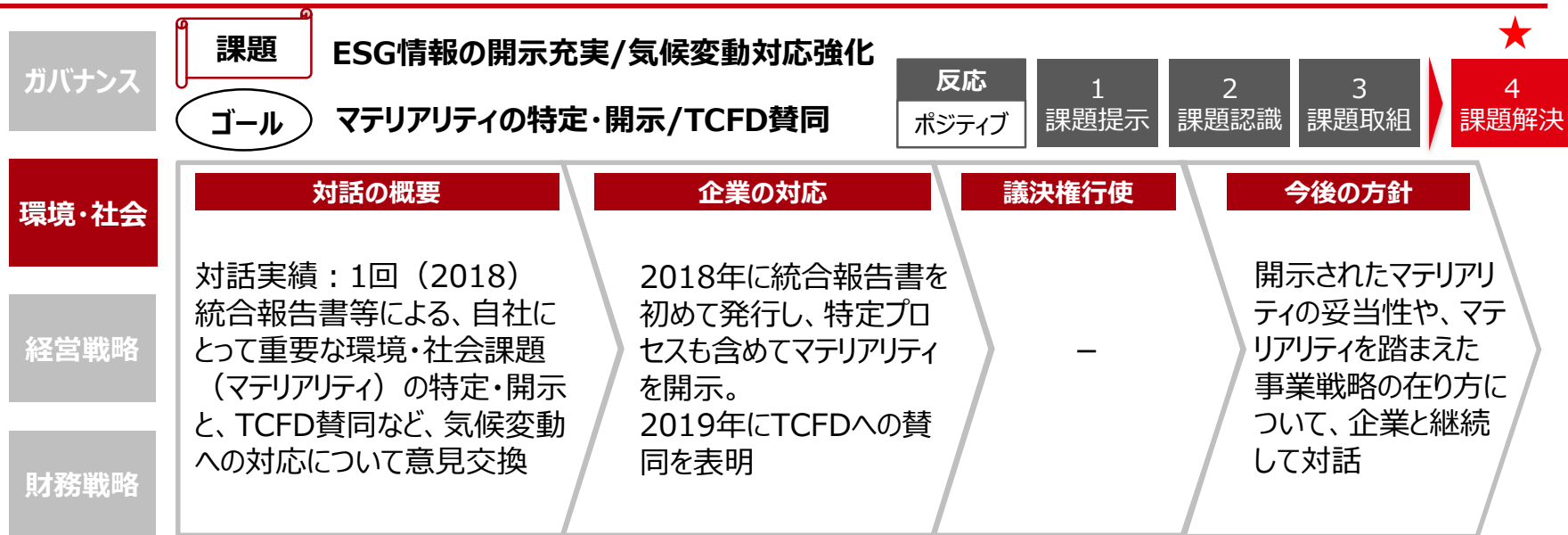


**B社**  
その他  
製品

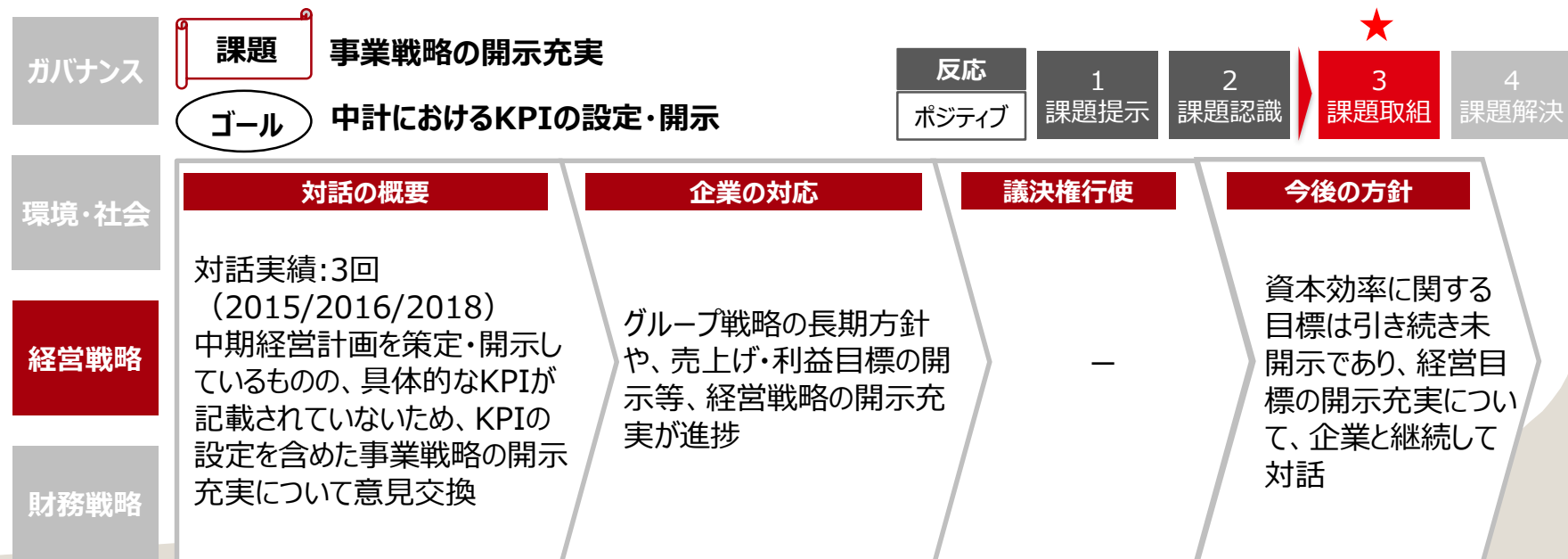


# エンゲージメントの主な事例

**C社**  
輸送用  
機器



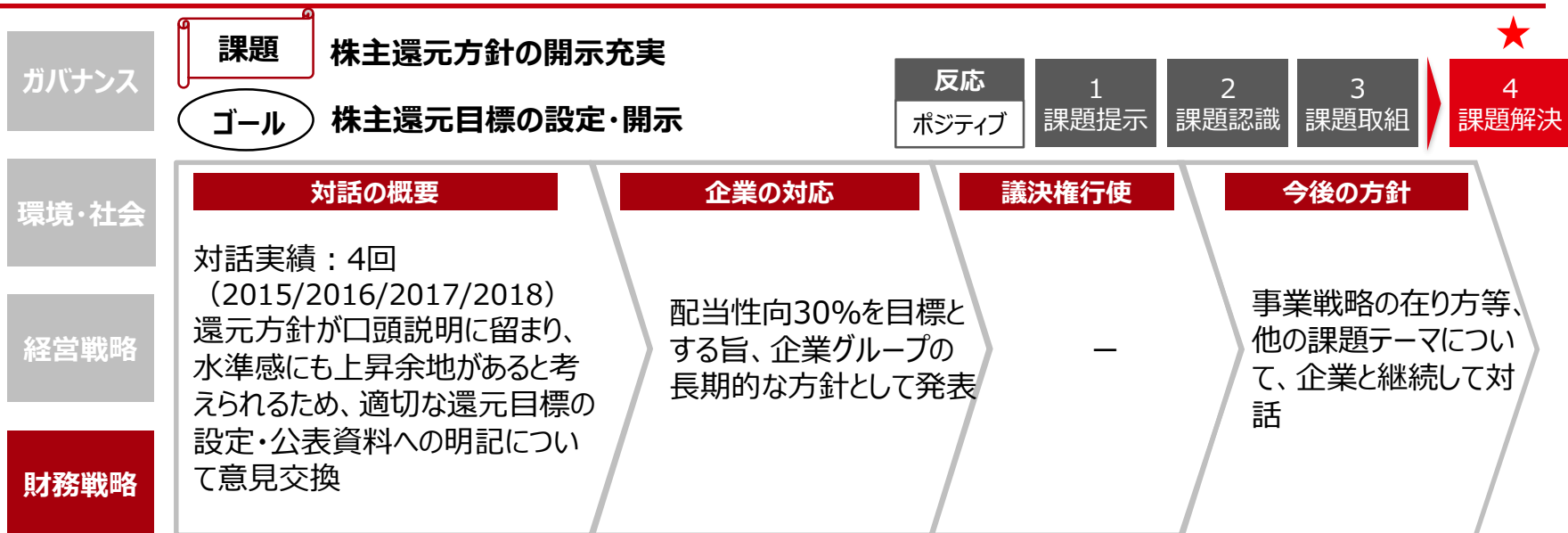
**D社**  
輸送用  
機器



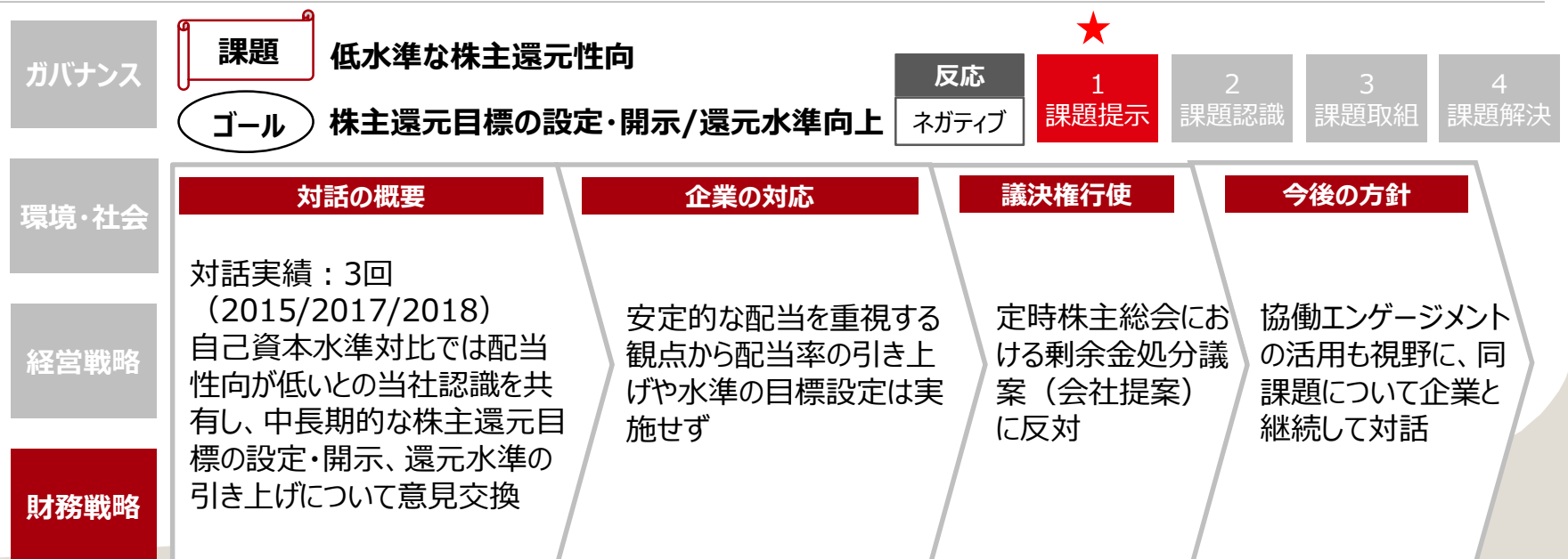


# エンゲージメントの主な事例

**E社**  
機械



**F社**  
小売業



# 協働エンゲージメントへの参画

- ◆ 当社単独のエンゲージメント活動を補強し、効果を高める取組として、生命保険協会のスチュワードシップ活動WGで実施している協働エンゲージメントに、当社はWG座長会社として参画しました。
- ◆ 2018年度は、参加会社共通の課題認識に基づき「株主還元の充実」（対象企業48社）と「ESG情報の開示充実」（対象企業64社）をテーマに計107社に対して実施し、一定の成果を確認しています。

## 対話テーマ



生命保険協会 スチュワードシップ活動WG  
(当社含む生保10社)

生保10社連名で書簡送付  
対話等を通じた趣旨説明

株主還元の充実

上場企業48社

ESG情報の  
開示充実

上場企業64社

## 対話結果

＜対話先企業のリアクション＞

### 株主還元の充実

配当性向30%以上  
を目指す  
33%

配当水準の  
引上げに消極的  
33%

方向性なし  
33%

### ESG情報の開示充実

開示充実を検討  
47%


開示充実に  
消極的  
6%

方向性なし  
47%

# 目次

1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ <b>2019年度取組方針</b>	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

# スチュワードシップ活動の2019年度取組方針

(対象期間：2019年7月～2020年6月)  Dai-ichi Life Group

## エンゲージメント

取組の拡大・深化を通じて、投資先企業の多様な課題への対応力を強化

### ◆ 気候変動対話の強化

TCFD提言に基づく開示の在り方等に関する対話を通じて、企業の気候変動への対応を後押し



TCFD

### ◆ 協働エンゲージメント参画

国内外の協働エンゲージメントへの参画を通じて、投資家共通の課題解決や市場環境整備に向け、個社単体以上の影響力を発揮



一般社団法人  
生命保険協会

### ◆ 債券エンゲージメントの本格開始

国内社債発行体に対するエンゲージメント活動を本格開始し、発行体の財務戦略の高度化や社債市場活性化に寄与



### ◆ 議決権行使の判断理由の開示充実

個別判断理由の記載の工夫等を通じて、議決権行使に関する当社の考え方を分かりやすく開示し、建設的な対話を一層促進



## ESGインテグレーション

評価基準の整備・体系化

### ◆ ESGの取組評価の体系化

企業のESG取組に関する評価基準を体系化し、企業評価に組み込むことで、投資判断により適切に反映



# 2019年度のエンゲージメント・重点テーマ

## エンゲージメントの重点テーマ

ESG

### 1. ガバナンス体制の整備

コーポレートガバナンス・コードを踏まえたガバナンスの高度化

### 2. 気候変動への対応

TCFD提言を踏まえたガバナンス体制構築、開示

### 3. 統合的な開示の充実

統合報告書等を通じた財務・非財務情報の統合的な開示

### 4. マテリアリティの特定と経営戦略への組込

ビジネスモデルの持続可能性における重要課題（マテリアリティ）の特定と経営戦略（リスク・成長機会）への反映

経営戦略

### 5. 持続的成長に向けた戦略的な投資

成長に向けた戦略的な投資方針  
（M&A・設備投資・研究開発投資・人材投資等）

財務戦略

### 6. 中長期的な財務戦略

成長投資、株主還元、内部留保の適切なバランス

## （参考）第一生命HDの取組

✓ 上場企業として、コーポレートガバナンス・コードを出発点とするガバナンス体制の継続的な見直し

✓ TCFDへの賛同、RE100への加盟



✓ **統合報告書**を作成し、当社の価値創造プロセスを公表



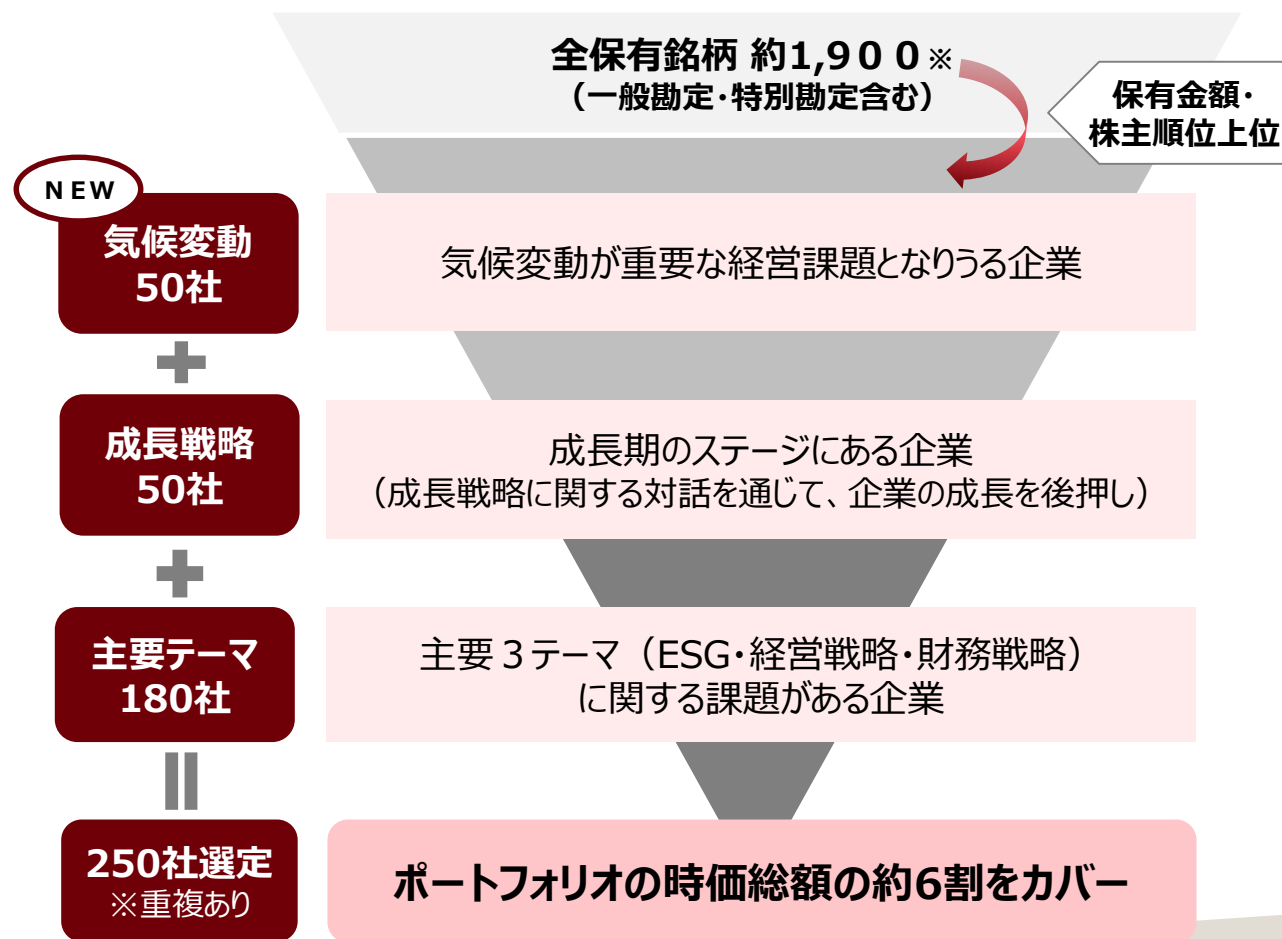
✓ 「QOL向上への貢献」を当社の価値創造の重点分野に位置づけ

✓ 生命保険事業の海外展開やInsTechの取組を推進

✓ 財務戦略として以下の目標を設定  
 【資本効率】 ROEV 8%以上  
 【資本充足率】 ESR170%~200%  
 【株主還元】 総還元性向40%

# 2019年度のエンゲージメント対象企業

◆ 2019年度は、エンゲージメント対象先として、保有金額や株主順位上位等の重要性を踏まえ、重点対話テーマである「気候変動」が重要な経営課題となりうる企業等を選定し、約250社とエンゲージメントを行っていきます。



※特別勘定のパッシブ商品の運用手法の変更により、保有銘柄数が昨年度対比で減少



1. トップメッセージ	…2	6. ESG投資の活動報告	…13
2. 第一生命が目指す姿	…3	✓ これまでの取組と活動の振り返り	
3. 責任投資のアプローチ	…4	✓ 2019年度取組方針	
4. 責任投資の推進体制	…5	✓ ESGテーマ型投資の実績	
5. ハイライト	…8	✓ ESGインテグレーションの取組事例	
		7. スチュワードシップ活動報告	…32
		✓ 基本的な考え方・プロセス	
		✓ これまでの取組と活動の振り返り	
		✓ エンゲージメントの事例	
		✓ 2019年度取組方針	
		✓ 参考資料	
		・スチュワードシップ・コードへの対応状況	
		・議決権行使基準	
		・議決権行使結果	

# (参考) スチュワードシップ・コードへの対応状況

## ●原則毎の取組状況と自己評価

原則	取組状況	自己評価
<b>原則1</b> 方針の策定・公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年4月に「スチュワードシップ活動方針」を以下のとおり改正し、公表しました。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ スチュワードシップ・コードに関する英国の動向やPRIアセスメント結果を踏まえ、当社として率先してスチュワードシップ責任を果たすべく、国内社債投資先をスチュワードシップ活動の対象として明記</li> <li>✓ 2018年度よりESGを主要テーマとする対話を本格的に開始し、今後も継続的に取り上げていくこと、また気候変動については、今後の企業価値向上に大きな影響を与えうる重要なテーマであることから対話の主要テーマとして「気候変動を含む、ガバナンスおよび環境・社会課題」を明記</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外の動向を踏まえた方針の改正・公表等を通じて、適切に実施していると評価しています。</li> </ul>
<b>原則2</b> 利益相反管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スチュワードシップ活動に関するガバナンス態勢の強化などを目的として、2017年4月に責任投資委員会を設置し、2018年4月からは、社外委員3名、社内委員2名（うち1名は利益相反管理を所管するコンプライアンス統括部担当執行役員）とし、社外委員過半の体制としています。</li> <li>● 保有金額が大きい企業や社会的な注目度が非常に高い企業・議案など、特に重要な議決権行使については責任投資委員会で審議のうえ決定するとともに、重要な議決権行使については、全件を責任投資委員会へ報告しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 責任投資委員会の設置や運営等を通じて適切に実施していると評価しています。</li> </ul>
<b>原則3</b> 投資先企業の的確な把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業績や財務状況等の定量的な把握に加え、ガバナンスや環境・社会課題など非財務情報の収集・分析に努め、投資先企業の中長期的な利益成長性評価を行っています。</li> <li>● 2016年度から2018年度の3か年累積で、国内株式ポートフォリオの時価総額の9割以上の企業と対話を実施しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 非財務情報の収集・分析を踏まえた利益成長性の評価や協働エンゲージメントの活用等は実施していますが、今後は<u>非財務情報のより体系的な組み込みや、協働エンゲージメントの実効性向上が課題</u>だと考えています。</li> </ul>
<b>原則4</b> 企業との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2018年度に対話を実施した61%の企業では、役員との面談となるなど、対話先の経営層と当社が考える課題の共有を図りました。</li> <li>● 生保協会のスチュワードシップ活動WGを通じた協働エンゲージメントにWG座長として参画しました。</li> </ul>	

# (参考) スチュワードシップ・コードへの対応状況

原則	取組状況	自己評価
<b>原則5</b> 議決権行使	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2018年度は、国内上場企業1,907社の全ての議決権を責任投資推進室において行使しました。</li> <li>● 責任投資委員会の審議を踏まえ、2019年4月に議決権行使基準の改正を実施し、その内容を公表しました。なお、改正基準の適用時期については、改正基準の内容毎に、企業が適切な対応が可能だと考えられる期間を設定しています。</li> <li>● 議決権行使における議案種類毎の集計結果および個別の投資先企業・議案毎の賛否結果について4半期毎に開示していますが、2019年1月分からは、個別の反対理由を含めた開示を開始しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 議決権行使基準の見直しや、反対理由の開示を含む行使結果の公表などを通じて適切に実施していると評価しています。</li> </ul>
<b>原則6</b> 定期的な報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スチュワードシップ活動全体の取組状況については、年度毎に「スチュワードシップ活動報告」（2018年度分からは「責任投資活動報告」）としてホームページにおいて公表しています。</li> <li>● 議決権行使については、議決権行使基準の全体とその改正予定、議決権行使の四半期毎の行使結果をそれぞれホームページにおいて公表しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スチュワードシップ活動を含む責任投資に関するホームページでの開示などを通じて適切に実施していると評価しています。</li> </ul>
<b>原則7</b> 実力の具備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2017年4月に責任投資推進室を新設し、本組織にスチュワードシップ活動に関する人員・機能を集約することで、スチュワードシップ活動に係る取組の高度化、ノウハウの蓄積、人材の育成を図っています。</li> <li>● 外部有識者を講師に招き、企業を取り巻く環境・社会課題に関する知識の習得や対話スキル向上に向けた社内勉強会を定期的開催しました。</li> <li>● 生命保険協会のスチュワードシップ活動WGで実施された、参加各社の取組の共有化や、外部の投資家を招いた意見交換会に参加しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 責任投資推進室の設置による人員・機能の集約や、生命保険協会のワーキング・グループにおける各社の取組事例の共有、外部の投資家を招いた意見交換会への参加などを通じて適切に実施していると評価しています。</li> </ul>

# (参考) 議決権行使基準 (主なポイント)

- ◆ 投資先企業の企業価値の向上や持続的成長を促す観点から議決権行使基準を定めています。
- ◆ 企業を取り巻く社会・経済状況等を踏まえ、行使基準の見直しを適宜実施しています。

議案	対象者	2019年4月基準	2020年4月以降の改正予定	対象
取締役・監査役 選任	代表取締役	<b>3期連続赤字、5期連続ROE3%未満</b> (該当期 間中継続して代表取締役として在任の場合)		全上場
	代表取締役	独立社外取締役が <b>不在</b>	独立社外取締役が <b>2名未満</b> <span style="background-color: #e0e0e0;">2021年4月～ 適用</span>	<b>東証一部</b>
		-	独立社外取締役が <b>不在</b> <span style="background-color: #e0e0e0;">2021年4月～ 適用</span>	<b>東証一部 を除く上場</b>
	独立社外取締役・ 監査役	・3親等以内の親族 ・保有比率15%以上の大株主出身	【現行基準に以下の要素を追加】 社外取締役・社外監査役等 (監査等委員を含む) として <b>長期在任 (通算12年以上)</b>	東証一部
	社外取締役・ 監査役	取締役会・監査役会への <b>出席率が75%未満</b>		東証一部
	監査役・監査等委 員である取締役	<b>長期在任 (12年以上)</b>		東証一部
役員報酬、株式報酬 ストックオプション発行・付与		<b>監査役等 (監査等委員を含む) に対する株式報 酬・ストックオプションの付与</b>		全上場
		<b>10%超の希薄化</b> が生じる恐れがある株式報酬・ス tockオプション付与		全上場
剰余金処分 (該当議案がない場合、 代表取締役の取締役再任)		3期累計かつ直近期の <b>総還元性向15%未満</b> (該 当議案がない場合、代表取締役の取締役再任)	3期累計かつ直近期の <b>総還元性向20%未満</b>	全上場
買収防衛策の導入・更新		(いずれかに該当) <b>3期連続ROE5%未満、独立 社外取締役が2名未満、経済的対価交付</b>		全上場
退職慰労金贈呈		<b>監査役等 (監査等委員を含む) に対する退職慰 労金贈呈</b>		東証一部

※議決権行使基準の詳細は、当社ホームページにおける開示資料をご覧ください。

<http://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ssc2.html>

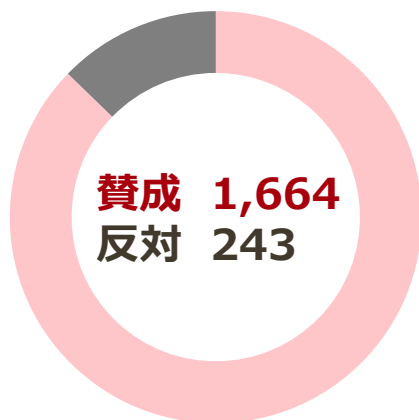
# (参考) 議決権行使結果 (2018年7月～2019年6月)

- ◆ 投資先企業との中長期的なエンゲージメントを重視し、当社反対基準についての考え方の周知に努めていることもあり、会社提案議案に対する反対比率は相対的に低位に留まっています。
- ◆ 株主提案議案については、企業価値向上に資すると判断した2議案について賛成しました。

## 会社提案議案

<企業数ベース>

反対比率12.7%



<議案数ベース>

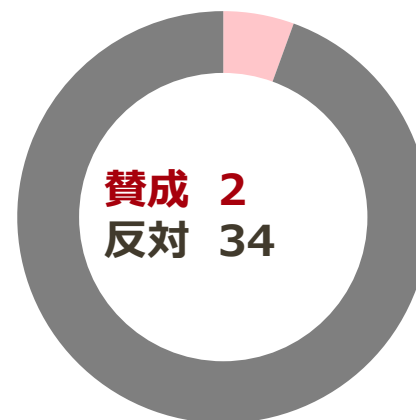
反対比率4.2%



## 株主提案議案

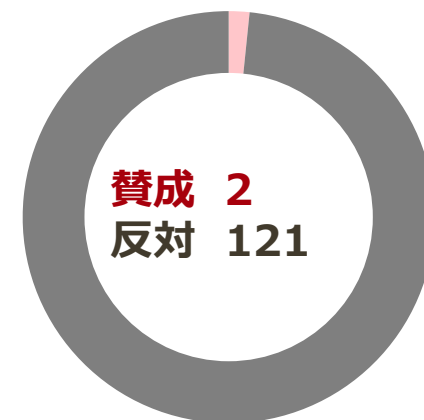
<企業数ベース>

反対比率94.4%



<議案数ベース>

反対比率98.4%



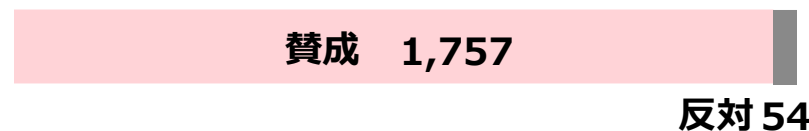
※個別の議決権行使結果は、当社ホームページにおける開示資料をご覧ください。

<https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ssc2.html>

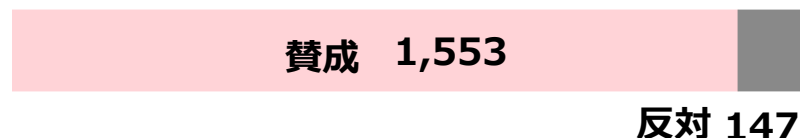
# (参考) 議決権行使結果 (2018年7月~2019年6月)

## ■ 会社機関に関する議案

【取締役の選解任】 反対比率 3.0%



【監査役の選解任】 反対比率 8.6%

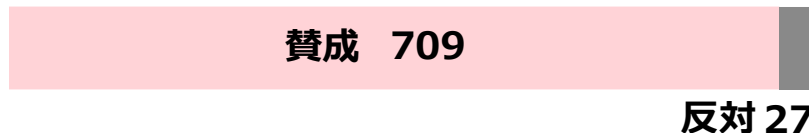


【会計監査人の選解任】 反対比率 0.0%

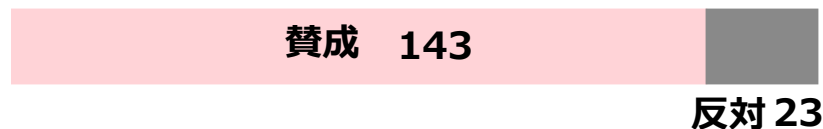


## ■ 役員報酬に関する議案

【役員報酬】 反対比率 3.7%

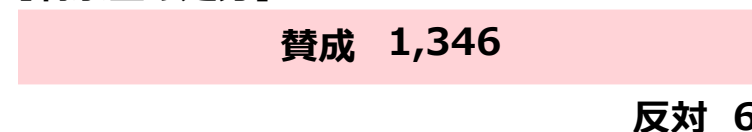


【退任役員退職慰労金の支給】 反対比率 13.9%



## ■ 資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)

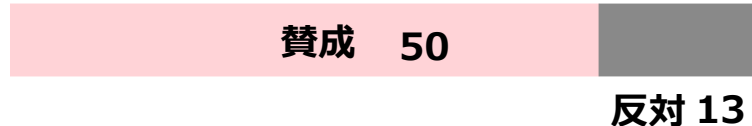
【剰余金の処分】 反対比率 0.4%



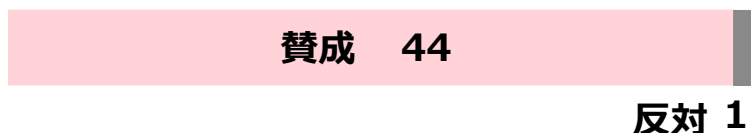
【組織再編関連】 反対比率 0.0%



【買収防衛策の導入・更新・廃止】 反対比率 20.6%



【その他資本政策に関する議案】 反対比率 2.2%



## ■ 定款に関する議案

反対比率 0.0%

